

## 資質・能力の他領域での活用・発揮を目指す指導計画の作成

### 実践場面

小学校第6学年

「資質・能力の他領域での活用・発揮を意識した年間指導計画を作成する場面」

### ねらい

国語科の資質・能力は領域間で結び付いている。とはいえ領域をまたいでの活用・発揮はなかなか難しい。そこで資質・能力の関連性に着目した年間指導計画を作成することで、活用・発揮させられるようにする。

### 【アイデアのポイント】

教材ではなく、育成をめざす資質・能力を柱(領域内のバランス、領域間の関連)とした年間指導計画を作成することにより、児童が課題解決に向けた見通しをもって学習に臨むことができるようにすることを旨とする。

月	教材名	知識及び技能	学習指導要領の内容		
			思考力、判断力、表現力等		
			A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと
4	つないで、つないで、一つのお話	(1)ア(2)ア	(1)エ		
	春の河／小景異情景 続けてみよう	(1)ケ		(1)ア(2)ウ	(1)エ
	帰り道	(1)オケ			(1)イエ
	地域の施設を活用しよう	(3)オ			
	漢字の形と音・意味	(1)エ(3)ウ			
	春のいぶき	(1)オ		(1)ア・オ(2)イ	
5	聞いて、考えを深めよう	(1)カ・キ	(1)イ エ(2)ア		
	漢字の広場①	(1)エ		(1)オ	
	笑うから楽しい 時計の時間と心の時間 【情報】主張と事例	(1)オ(2)ア			(1)ア ウ・オ (2)ア
6	話し言葉と書き言葉	(1)イ			
	たのしみは	(1)オ(3)イ		(1)ア・カ(2)イ	
	文の組み立て	(1)カ			
	天地の文	(3)ア・イ			
	【情報】情報と情報をつなげて伝えるとき	(2)イ		(1)ア	
	私たちにできること	(1)カ・キ(2)イ		(1)ア・イ ウ・カ (2)ア	

「小2 指導事項と授業時数の配当（光村図書）」を基に作成



年間を通して各領域の指導事項がバランスよく配置されている。



資質・能力の定着の点から考えると、単元を連続させ活用・発揮を促した方よいのではないか。



例えば、「事実と感想、意見とを区別する」という指導事項に注目してみよう。

## ステップ1 指導事項の確認

「事実と感想，意見とを区別する」に関する各領域の記載は次のようになっています。

### A 話すこと・聞くこと

イ 話の内容が明確になるように、**事実と感想，意見とを区別する**など話の構成を考えること。

### B 書くこと

ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、**事実と感想，意見とを区別して**書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

### C 読むこと

ア **事実と感想，意見**などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。

## ステップ2 児童の実際の確認

児童の実態から、最も効果的な「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の実施順を検討します。

教科書では、

- ①「聞いて考えを深めよう(話すこと・聞くこと)」
  - ②「笑うから楽しい・時計の時間と心の時間(読むこと)」
  - ③「私たちにできること(書くこと)」
- の順番になっている。

しかし、児童の実態から考えると、

- ①なぜこの構成がよいのかを読んで理解して
  - ②話して体験してみても
  - ③最後にじっくり書いてみる
- という流れが合っている。



**では、思い切って単元の順番を変えてみよう。**

## ステップ3 単元配列の検討

単元1【読むこと】  
「笑うから楽しい」  
「時計の時間と心の時間」

- 1 「笑うから楽しい」を読む。
- 2 「時計の時間と心の時間」を読む。
- 3 主張と事例との関係性に着目しながら、論の進め方について考える。
- 4 主張に対する自分の考えをまとめる。
- 5 学習を振り返る。

単元2【話すこと・聞くこと】  
「聞いて考えを深めよう」

- 1 話題を確かめ、自分の考えを整理する。
- 2 話題について友達から聞きたいことを考える。
- 3 意見と理由、事例とのつながりに気を付けて相手の考えを聞く。
- 4 他の考えを基に自分の考えを深める。
- 5 学習を振り返る。

単元3【書くこと】  
「私たちにできること」

- 1 提案文を書くための資料を集める。
- 2 提案とのつながりを考え情報を取捨選択する。
- 3 提案文の構成を考える。
- 4 構成に基づき、提案文を書く。
- 5 提案文を基に、他と交流する。
- 6 学習を振り返る。

主張を説明するために挙げられる事柄が事例であり、具体的に主張の正しさを裏付けるものになっているとき、主張を支える根拠となることを学ぶ。



主張を裏付ける根拠としての事例とはどうあるべきか（どんな事柄を選択し、どのように文章中に配置するのか）を相手の主張を聞くことを通して客観的に学ぶ。



根拠となり得る情報の収集・選択、つながりを考慮した配置（構成）、文末表現等に注意した提案文の作成という一連の活動を通し、事実と感想、意見との区別を学ぶ。

月	教材名
4	つないで、つないで、一つのお話
	春の河／小景異情景 続けてみよう
	帰り道
	地域の施設を活用しよう
	漢字の形と音・意味
	春のいぶき
5	聞いて、考えを深めよう
	漢字の広場①
	笑うから楽しい 時計の時間と心の時間 【情報】主張と事例
6	話し言葉と書き言葉
	たのしみは
	文の組み立て
	天地の文
	【情報】情報と情報をつなげて伝えるとき
	私たちにできること

話すこと・聞くこと

読むこと

書くこと

月	教材名
4	つないで、つないで、一つのお話
	春の河／小景異情景 続けてみよう
	帰り道
	地域の施設を活用しよう
	漢字の形と音・意味
	春のいぶき
5	漢字の広場①
	話し言葉と書き言葉
	文の組み立て
6	笑うから楽しい 時計の時間と心の時間 【情報】主張と事例
	聞いて、考えを深めよう
	【情報】 情報と情報をつなげて伝えるとき 私たちにできること
	たのしみは
	天地の文



これで児童の学びがつながる。